

令和4(2022)年度栃木県立図書館運営評価について

平成20(2008)年6月に図書館法が改正され、公共図書館の運営状況についての自己評価と改善が努力義務化された。

また、平成24(2012)年12月には、文部科学省から、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」が改正告示され、運営状況に関する自己評価の実施をはじめ、レファレンスサービス等情報サービスの充実などに関する規定が整備された。

さらに、本県においては、県民ニーズの多様化や市町立図書館の整備の進展に伴い、県立図書館としての今後のあり方を検討するために「栃木県立図書館あり方検討委員会」が設置され、平成24(2012)年1月に「とちぎの知の拠点」として目指すべき姿が示された。

このような中、より客観的な視点からサービスの充実を図るため、平成25(2013)年度から栃木県立図書館運営評価を導入し、サービス向上を目指しているところである。

なお、この評価制度を導入してから5年が経過したことから平成30(2018)年度から評価指標の改定を行い、より一層のサービス向上を目指し、運営評価を実施している。

1 根拠法令

【図書館法】

(運営の状況に関する評価等)

第7条の3 図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

【図書館の設置及び運営上の望ましい基準】 (平成24(2012)年12月19日 文部科学省告示第172号)

第二 公立図書館

一 市町村立図書館

1 管理運営

(一) 基本的運営方針及び事業計画

- 1 市町村立図書館は、その設置の目的を踏まえ、社会の変化や地域の実情に応じ、当該図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針（以下「基本的運営方針」という。）を策定し、公表するよう努めるものとする。
- 2 市町村立図書館は、基本的運営方針を踏まえ、図書館サービスその他図書館の運営に関する適切な指標を選定し、これらに係る目標を設定するとともに、事業年度ごとに、当該事業年度の事業計画を策定し、公表するよう努めるものとする。
- 3 市町村立図書館は、基本的運営方針並びに前項の指標、目標及び事業計画の策定に当たっては、利用者及び住民の要望並びに社会の要請に十分留意するものとする。

(二) 運営の状況に関する点検及び評価等

- 1 市町村立図書館は、基本的運営方針に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、各年度の図書館サービスその他図書館の運営の状況について、(一)の2の目標及び事業計画の達成状況等に関し自ら点検及び評価を行うよう努めなければならない。

二 都道府県立図書館

6 準用

第二の一に定める市町村立図書館に係る基準は、都道府県立図書館に準用する。

2 構成

「栃木県立図書館あり方検討委員会報告書」及び令和4(2022)年度経営方針を踏まえ、以下の4機能について、評価指標を設定する(別紙「体系図」参照)

〈“とちぎ”のことなら何でもわかる図書館〉

①地域資料情報センター機能の充実

〈県内図書館をリードする中核的図書館〉

②市町立図書館等支援機能の充実

③読書活動支援機能の充実

〈県民の課題解決のための図書館〉

④課題解決支援機能の充実

3 評価方法と実施サイクル

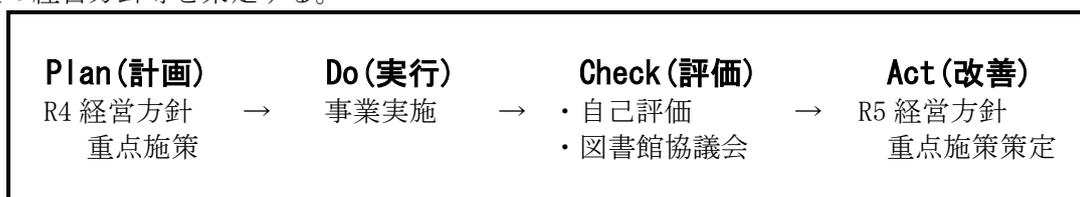
(1) 評価方法

各評価指標に対して数値目標を設定し、その達成度を評価する。

数値目標に対する達成率	評価
目標を達成した(100%以上)	A
概ね目標を達成した(80%以上100%未満)	B
目標をある程度達成した(60%以上80%未満)	C
目標をあまり達成できなかった(40%以上60%未満)	D
目標を達成できなかった(40%未満)	E

(2) 実施サイクル

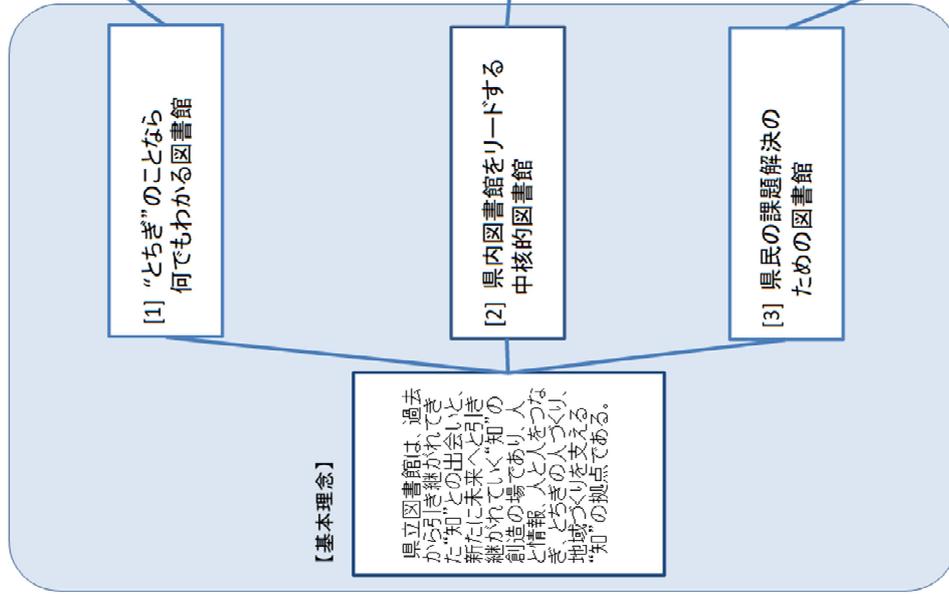
各指標に対して自己評価を行うとともに、図書館協議会からの意見を反映しながら次年度の経営方針等を策定する。



栃木県立図書館運営評価の体系図

目指すべき姿

～とちぎの“知”の拠点としての更なる飛躍のために～



[R4(2022)重点施策]

1 知の財産を守り育み、発信する取組の充実

○ 地域資料情報センター機能の充実

- ・地域資料の網羅的収集
- ・栃木県に関する情報発信

2 図書館と人と情報をつなぎ、県民ニーズに対応したサービスを展開

○ 市町立図書館等支援機能の充実

- ・相互貸借体制、栃木県総合目録システムの充実
- ・市町立図書館等に対するレファレンス支援、職員研修の充実

○ 読書活動支援機能の充実

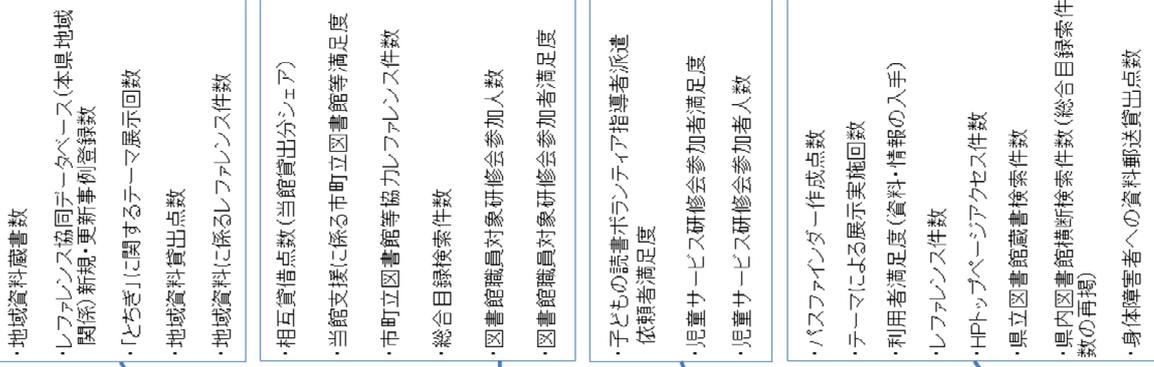
- ・子どもの読書活動を推進するための、指導者のスキルアップや関係機関との連携強化

3 知の財産を活用し、県民の課題解決を支援する取組の充実

○ 課題解決支援機能の充実

- ・社会情勢等に応じたテーマによる課題解決支援

[R4(2022)評価指標]



4 評価

[1] “とちぎ”のことなら何でもわかる図書館

1 知の財産を守り育み、発信する取組の充実

栃木県に関する資料の網羅的な収集と保存を行い、「栃木県に関わる情報の総合窓口」として、地域資料・情報の保存及び発信を行う。

○地域資料情報センター機能の充実

【令和4(2022)年度の具体的な取組】

- ・ 出版情報や古書目録、新聞、雑誌、インターネット等、多様な媒体を通じて地域資料の出版情報を収集し、蔵書の更なる充実を図った。特に、いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会関連資料の収集や、統廃合に伴う学校図書館所蔵資料の移管などに取り組んだ。
- ・ 本県出身や在住等のゆかり作家による作品、本県を舞台とする文学作品等についても、積極的に収集した。
- ・ 電子行政資料に係る県庁への照会方法等を見直し、より安定的な収集・管理が可能となった。
- ・ デジタルアーカイブ「栃木県立図書館デジタルコレクション」のデザインを刷新し、デジタル化資料を検索・閲覧するためのポータルサイトとしてリニューアルした。また、当館所蔵の宇都宮市指定有形文化財5点のデータを新たに公開した。
- ・ 令和3年に寄贈のあった地租改正切絵図ほか、日光関係資料5点について、原資料の保存と利便性の向上の観点からデジタル化を行った。
- ・ 文書館、美術館、博物館等に対して、企画展のための資料の特別貸出等を行うとともに、地域資料室内で各館の企画展と連携した展示コーナーを設置し、情報発信を行った。
- ・ とちぎに関する調査依頼に丁寧に対応するとともに、国立国会図書館が運営する「レファレンス協同データベース」へ積極的に事例を登録し、利用者の調査支援に努めた。
- ・ 図書館だよりやホームページ、研修等のさまざまな機会を捉えて、地域資料室やレファレンスサービスの周知を図った。

評価指標 1

地域資料蔵書数【地域資料の充実度を示す】

基準値	区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
84,681点 (H28実績)	目標	88,000点	91,600点	93,300点	94,800点	97,000点
	実績	89,686点	91,923点	93,810点	95,892点	97,951点
	達成率	102%	100%	101%	101%	101%
	評価	A	A	A	A	A

評価指標 2

レファレンス協同データベース*1 本県地域関係新規・継続事例登録数

【栃木県に関する調査研究への支援成果及びその全国への情報発信を示す】

基準値	区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
60点 (H28実績)	目標	60点	60点	60点	60点	60点
	実績	60点	60点	60点	60点	60点
	達成率	100%	100%	100%	100%	100%
	評価	A	A	A	A	A

*1 レファレンス協同データベース

国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している、調査用データベース。レファレンス事例、調べ方マニュアル、特別コレクション及び参加館プロフィールに係るデータを蓄積し、インターネットを通じて提供することで調査研究活動を支援することを目的とする。

評価指標 3

「とちぎ」に関するテーマ展示回数【地域資料の充実度を示す】

基準値	区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
12回 (H28実績)	目標	12回	12回	12回	12回	12回
	実績	13回	13回	15回	15回	19回
	達成率	108%	108%	125%	125%	150%
	評価	A	A	A	A	A

評価指標 4

地域資料貸出点数【栃木県に関する調査研究への支援状況を示す】

基準値	区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
1,975点 (H28実績)	目標	2,100点	2,100点	2,100点	2,100点	2,100点
	実績	2,382点	2,105点	2,578点	1,884点	2,107点
	達成率	108%	108%	125%	90%	100%
	評価	A	A	A	B	A

評価指標 5

地域資料に係るレファレンス件数【栃木県に関する調査研究への支援状況を示す】

基準値	区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
2,110 件 (H28 実績)	目標	2,250 件	2,250 件	2,250 件	2,250 件	2,250 件
	実績	2,688 件	2,440 件	2,605 件	2,838 件	2,776 件
	達成率	119%	108%	116%	126%	123%
	評価	A	A	A	A	A

【自己評価・分析】

- ・ 42年ぶりに本県で開催されたとちぎ国体の関連資料については、県政の重要な記録として積極的な収集に努めた。また、県庁や学校図書館からの寄贈・移管の照会が増加しており、地域資料の保存施設として認知が進んだと思われる。
- ・ 平成30(2018)年度から県の電子行政資料の収集を開始しており、行政資料の発行形態が紙から電子へ移行しても途切れることのない収集体制が整備できている。さらに、県庁への照会方法等を見直したことでより安定的な収集・管理が可能となり、当館ホームページ「行政資料アーカイブ」の充実につながった。
- ・ 「栃木県立図書館デジタルコレクション」については、当館ホームページ上に複数存在していたアーカイブを統合し、資料を一元的に検索・閲覧できるポータルサイトとすることで、利便性向上につながった。また、新たなコンテンツの公開により、内容の充実を図った。
- ・ 文書館、美術館、博物館との連携展示に加え、とちぎ国体関連展示「本で知ろう！栃木県のスポーツ」、家康公と日光の紹介展示「徳川家康公と日光東照宮」などの展示を行い、本県の魅力発信と利用者の興味の喚起につながった。
- ・ 「レファレンス協同データベース」への継続的な事例登録により、とちぎに関する情報の調査支援の強化につながっている。当館は本事業への協力が評価され、13年連続で国立国会図書館長から感謝状を授与されている。これまでの登録事例は、1,000件超である。

【図書館協議会委員からの意見】

- ・ 図書館は、「過去」の資料を集積し、「今」の情報を得ることができる施設。だが、「とちぎのことなら何でも分かる」という目標に向け、とちぎの「過去と今」だけでなく、「未来」まで示すような図書館をぜひ目指してほしい。

【今後の方向性及び次年度の方針】

- ・ 地域資料の充実に向けて、個人や学校、企業等が所有する地域資料の発掘に努め、寄贈依頼を継続して行っていく。
- ・ 電子行政資料の継続的な収集・保存及びホームページ上での公開に努め、県民への提供はもとより行政機関での資料活用の推進を図る。
- ・ デジタル化資料のうち、著作権等の要件を満たした資料を順次「栃木県立図書館デジタルコレクション」内で公開する。
- ・ 栃木県誕生150年に当たり、更なる地域資料の充実に努めるとともに、関連展示等を通じて本県の魅力発信を行う。その他、本県の魅力発信につながる展示や、県庁との連携展示に積極的に取り組む。
- ・ 「レファレンス協同データベース」への地域事例等の登録に継続的に取り組み、地域資料やレファレンスの周知を図るとともに、地域に関する様々な情報の調べ方を周知する。また、行政職員の業務支援のため、県庁へレファレンスサービスの周知を図る。

[2] 県内図書館をリードする中核的図書館

2 図書館と人と情報をつなぎ、県民ニーズに対応したサービスを展開

図書館と図書館、人と情報をつなぐ県内の中核的図書館として、図書館ネットワークを強化すると共に、市町立図書館等の支援を行い、県全体の図書館振興を図る。

○市町立図書館等支援機能の充実

【令和4(2022)年度の具体的な取組】

- ・ 図書館協力ネットワーク会議や満足度調査、巡回相談等で、市町立図書館等の要望や意見等を聴取し、資料相互貸借制度や栃木県図書館総合目録の円滑な運用に努めた。
- ・ 館外に所蔵資料を持参して行う出張展示において、相互貸借制度のPRを行った。
- ・ 巡回相談については、実施方法を訪問・オンライン・書面の選択とし、市町立図書館職員が参加しやすい環境を整えた。
- ・ 市町立図書館等職員を対象とした研修については、オンライン開催を基本としつつ、演習・実習を伴う集合研修も再開し、内容の充実に努めた。また、各図書館からの研修依頼にも積極的に対応した。

評価指標 1

相互貸借点数（当館貸出分シェア）【資料の利用提供における市町立図書館への支援状況を示す】

基準値	区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
20.7% (H28実績)	目標	総件数の 20%以上	総件数の 20%以上	総件数の 20%以上	総件数の 20%以上	総件数の 20%以上
	実績	21.1%	20.0%	20.8%	21%	20.7%
	達成率	106%	100%	104%	105%	104%
	評価	A	A	A	A	A

評価指標 2

市町立図書館等支援満足度（県内図書館に対する調査）【当館の支援に対する満足度を示す】

基準値	区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
4.2 (H28実績)	目標	4.2以上	4.2以上	4.2以上	4.2以上	4.2以上
	実績	4.4	4.3	4.2	4.3	4.3
	達成率	105%	102%	100%	102%	102%
	評価	A	A	A	A	A

評価指標 3

市町立図書館等協力レファレンス件数【資料の利用提供における市町立図書館への支援状況を示す】

基準値	区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
89 件 (H28 実績)	目標	90 件	90 件	90 件	90 件	90 件
	実績	111 件	91 件	76 件	135 件	99 件
	達成率	123%	101%	84%	150%	110%
	評価	A	A	B	A	A

評価指標 4

総合目録検索件数【中核図書館としての機能の充実度を示す】

基準値	区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
255,191 件 (H28 実績)	目標	260,000 件	260,000 件	260,000 件	260,000 件	260,000 件
	実績	267,006 件	264,504 件	340,095 件	372,478 件	442,563 件
	達成率	103%	102%	131%	143%	170%
	評価	A	A	A	A	A

評価指標 5

図書館職員対象研修会参加人数【研修における市町立図書館等への支援状況を示す】

基準値	区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
364 名 (H28 実績)	目標	350 名	350 名	350 名	350 名	350 名
	実績	311 名	319 名	261 名	308 名	384 名
	達成率	89%	91%	75%	88%	109%
	評価	B	B	C	B	A

評価指標 6

図書館職員対象研修満足度【当館の支援に対する満足度を示す】

基準値	区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
4.0 (H28 実績) (5段階評価)	目標	4.0 以上	4.0 以上	4.0 以上	4.0 以上	4.0 以上
	実績	4.1	4.0	4.0	4.2	4.1
	達成率	103%	100%	100%	105%	103%
	評価	A	A	A	A	A

【自己評価・分析】

- ・ 巡回相談や研修等の機会を生かして、資料購入リクエスト制度や協力レファレンスサービスを含めた支援業務について理解を図るとともに、業務向上に向けた意見交換を行うことで、継続して高い満足度を得ることができている。
- ・ 市町立図書館等職員を対象とした研修については、オンライン開催により遠方の図書館職員の参加を促すとともに、5か所での出張研修会開催により、通常は研修への参加が難しい職員の受講機会につなげることができている。
- ・ 関東地区公共図書館協議会研究発表大会が本県開催であったことから、「図書館経営研修会」を兼ねてオンラインで開催した。市町立図書館等から多数の参加申込があった。

※図書館協議会委員からは意見なし。

【今後の方向性及び次年度の方針】

- ・ 資料相互貸借制度や栃木県図書館総合目録の円滑な運用に努め、市町立図書館等との連携強化を図る。
- ・ 宇都宮大学附属図書館をはじめ、県内大学図書館との連携強化を図り、市町立図書館等を含めた県内図書館サービスの充実を目指す。
- ・ 市町立図書館等へのレファレンス支援や職員研修をきめ細かく展開し、県全体の図書館サービスの向上を図る。
- ・ 市町立図書館等に対する職員研修は、より多くの職員が受講しやすい開催方法を検討するとともに、内容の充実にも努める。

○読書活動支援機能の充実

【令和4(2022)年度の具体的な取組】

- ・ 子どもの読書活動の推進や研究活動に役立つ資料を積極的に購入し、子どもの読書活動に係る支援機能の充実を図った。
- ・ 関係団体が主催する講座と連携した展示を積極的に実施し、関係者の利用を促進した。
- ・ 子どもの読書ボランティア指導者スキルアップ研修は、登録指導者以外にも受講対象を拡大するとともに、全5回講座のうち2回を公開講座として開催した。
- ・ 2件の子どもの読書ボランティア指導者の派遣依頼があり、指導者の調整を行った。
- ・ 生涯学習課が主催する「高校生読書活動推進事業」に参画し、読書コンシェルジュ育成研修で講師を務めたほか、アドバイザーとして活動を支援した。また、読書コンシェルジュの企画に基づく連携展示「司書のオススメ本～県立図書館から高校生へ～」や、生徒が作成したおすすめ本のポップを紹介する展示を実施した。さらに、文芸講演会では、希望する3名の読書コンシェルジュに運営を支援いただいた。
- ・ 県高等学校教育研究会図書館部会上都賀支部からの依頼に応じて、教職員向け研修を開催した。また、ホームページ等を活用した情報提供に努めた。
- ・ 児童サービス研修会は、市町立図書館等から要望が多い学校連携に関する内容を扱った。

評価指標 1

子どもの読書ボランティア指導者派遣依頼者満足度【読書ボランティア支援の満足度を示す】

基準値	区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
4.1 (新規) (5段階評価)	目標	4.1 以上	4.1 以上	4.1 以上	4.1 以上	4.1 以上
	実績	4.8	4.7	—	—	5.0
	達成率	117%	115%	—	—	121%
	評価	A	A	—	—	A

※R2・R3は新型コロナウイルス感染症の影響で派遣実績なし。

評価指標 2

児童サービス研修会参加者満足度【当館の支援に対する満足度を示す】

基準値	区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
4.1 (H28 実績) (5段階評価)	目標	4.1 以上	4.1 以上	4.1 以上	4.1 以上	4.1 以上
	実績	3.9	4.7	4.1	4.7	4.6
	達成率	95%	115%	100%	115%	112%
	評価	B	A	A	A	A

評価指標 3

児童サービス研修会参加人数【子どもの読書活動支援の充実度を示す】

基準値	区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
26名 (H28実績)	目標	30名	30名	30名	30名	30名
	実績	45名	49名	31名	35名	42名
	達成率	150%	163%	103%	117%	140%
	評価	A	A	A	A	A

【自己評価・分析】

- ・ 読書活動支援室内での展示を積極的に行ったことで、子どもの読書関係者や保護者等の同室の利用促進や情報提供促進につなげることができた。
- ・ 子どもの読書ボランティア指導者スキルアップ研修は、受講対象を拡大したことで参加者の増加につながった。また、講座の一部を3年ぶりに集合型で開催し、実技面のスキルアップと参加者同士の情報交換の機会となっただけでなく、オンライン研修への参加が難しい対象者からの評価につながった。
- ・ 子どもの読書ボランティア指導者は2件の研修講師派遣依頼があり、いずれも高い評価を得た。ただし、登録指導者数に対し派遣可能者数が少ないことが課題となっており、次年度の事業のあり方や研修の実施方針等について検討する必要がある。
- ・ 児童サービス研修会については、現場でのニーズが高い学校連携をテーマに取り上げ、GIGAスクール構想を踏まえた支援方策についてお話しいただき、高評価につながった。
- ・ 読書コンシェルジュ関連事業については、当館職員が研修講師等として積極的に参画するだけでなく、生徒の活動と連携した展示や文芸講演会での運営協力など、当館主催事業と連携した活動場所の提供にもつなげることができた。
- ・ 当館ホームページに学校向けの案内ページを新たに作成し、学校向けの情報提供の強化につながった。また、関係団体からの求めに応じて、県立学校教職員を対象とした研修を実施したことで、学校との連携強化につながった。

【図書館協議会委員からの意見】

- ・ 読書ボランティア指導者スキルアップ研修が、受講対象者を拡大して開催されたことは良かった。開催通知を早めに送付されると、なお良い。

【今後の方向性及び次年度の方針】

- ・ 県内の子どもの読書活動の推進に向けて、読書活動支援室の充実及びホームページ等による広報、指導者派遣事業の活性化等に努める。
- ・ 読書ボランティア指導者スキルアップ研修については、登録指導者以外で長く活動を続ける読書ボランティアから研修受講の要望が上がっていることから、受講対象者を含めた事業のあり方について検討を行う。
- ・ 生涯学習課主催の「高校生読書活動推進事業」に積極的に協力し、読書コンシェルジュの育成や活動支援に取り組むとともに、生徒の活動場所としての当館及び主催事業の活用にも積極的に取り組む。
- ・ 県内高等学校等との連携を深め、研修依頼等に積極的に対応する。
- ・ 子どもの読書活動をめぐる情勢や参加対象者の要望等を踏まえて、各種研修テーマを設定する。また、参加者の利便性等を踏まえ、開催方法を検討する。

[3] 県民の課題解決のための図書館

3 知の財産を活用し、県民の課題解決を支援する取組の充実

県立図書館の豊富な蔵書を生かし、社会情勢等に合わせた情報提供を行い、県民の課題解決支援を図る。

○課題解決支援機能の充実

【令和4(2022)年度の具体的な取組】

- ・ 県民の課題解決支援のため、図書館資料の充実や契約オンラインデータベースの積極的な活用、様々な関係機関との連携に努めた。
- ・ 当館で重点テーマとしている「法律情報」「地域福祉情報」については、生活に身近な関連知識を得るための資料の充実に取り組んだほか、「18歳成人」「LGBT」等のテーマ展示を実施し、情報提供を行った。
- ・ 県庁や関係機関と連携し、ロビーでの連携展示や出張展示、ブックリストの提供などに取り組み、当館及び所蔵資料の周知に努めた。
- ・ パスファインダーについては、レファレンスの多い足尾銅山関係の調べ方をはじめ7点を新規に作成した。また、7点の既存パスファインダーの更新を行い、鮮度の高い資料・情報の提供に努めた。
- ・ 企画展示については、栃木県の魅力発信につながるテーマ展示や関係各所との連携展示、文学賞に関する展示などを行い、利用者の知的関心の喚起と当館所蔵資料の紹介に取り組んだ。また、ホームページやフェイスブックによる積極的な情報提供を行った。
- ・ 図書館利用者アンケートの意見を受けて、1階ロビーに新着図書の帯を展示するコーナーを新設した。
- ・ 郵送によるコピーサービスについて、栃木県電子申請システムを通じた電子申請及び電子納付を開始し、非来館型サービスの充実を図った。

評価指標 1

パスファインダー*2作成点数【課題解決のためのツールの提供状況を示す】

基準値	区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
12点 (H28実績)	目標	14点	14点	14点	14点	14点
	実績	12点	14点	14点	14点	14点
	達成率	86%	100%	100%	100%	100%
	評価	B	A	A	A	A

*2 パスファインダー：特定のテーマに関する文献、情報の探し方・調べ方の案内

評価指標 2

テーマによる展示実施回数【社会情勢等に合わせた展示による情報提供の充実度を示す】

基準値	区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
35回 (H28実績)	目標	35回	35回	35回	35回	35回
	実績	38回	38回	36回	38回	43回
	達成率	109%	109%	103%	109%	120%
	評価	A	A	A	A	A

評価指標 3

利用者満足度（目的の資料・情報が入手できたか）【図書館利用の満足度を示す】

基準値	区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
4.2 (新規) (5段階評価)	目標	4.2以上	4.2以上	4.2以上	4.2以上	4.2以上
	実績	4.1	4.2	4.2	4.4	4.2
	達成率	98%	100%	100%	105%	100%
	評価	B	A	A	A	A

評価指標 4

レファレンス件数【調査研究への支援状況を示す】

基準値	区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
7,637件 (H28実績)	目標	7,800件	7,800件	7,800件	7,800件	7,800件
	実績	8,168件	7,931件	8,030件	8,669件	8,186件
	達成率	105%	102%	103%	111%	105%
	評価	A	A	A	A	A

評価指標 5

HPトップページアクセス件数【非来館型情報提供サービスの充実度を示す】

基準値	区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
127,283 件 (H28 実績)	目標	130,000 件	130,000 件	130,000 件	130,000 件	130,000 件
	実績	119,003 件	121,105 件	113,976 件	108,864 件	121,055 件
	達成率	92%	93%	88%	84%	93%
	評価	B	B	B	B	B

評価指標 6

県立図書館蔵書検索件数【非来館型情報提供サービスの充実度を示す】

基準値	区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
691,824 件 (H28 実績)	目標	700,000 件	700,000 件	700,000 件	700,000 件	700,000 件
	実績	810,816 件	854,012 件	1,462,665 件	1,448,743 件	1,841,397 件
	達成率	116%	122%	209%	207%	263%
	評価	A	A	A	A	A

評価指標 7

県内図書館横断検索件数（総合目録件数の再掲）【中核図書館としての機能の充実度を示す】

基準値	区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
255,191 件 (H28 実績)	目標	260,000 件	260,000 件	260,000 件	260,000 件	260,000 件
	実績	267,006 件	264,504 件	340,095 件	372,478 件	442,563 件
	達成率	103%	102%	131%	143%	170%
	評価	A	A	A	A	A

評価指標 8

身体障害者への資料郵送貸出点数【ハンディキャップサービスの充実度を示す】

基準値	区分	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
418点 (H28実績)	目標	430点	430点	250点	250点	250点
	実績	425点	209点	224点	210点	125点
	達成率	99%	49%	90%	84%	50%
	評価	B	D	B	B	D

【自己評価・分析】

- ・ 当館の契約オンラインデータベースからの印刷提供を開始し、利用者の利便性向上につなげた。
- ・ パスファインダーの改訂について、有用なオンラインデータベース等に関する情報等を更新し、より利便性の高い内容となった。
- ・ 文書館、美術館、博物館のほか、人権・青少年男女参画課（LGBT 関連、人権週間）、労働委員会（労働相談関連）、消防防災課（火災予防運動）、栃木子どもの本連絡会（連続講座）等と連携し、様々な展示を実施した。
- ・ 郵送によるコピーサービスに係る電子申請及び電子納付を開始し、利用者の利便性向上につなげた。
- ・ 蔵書検索件数が年々増加傾向にある一方で、ホームページのトップページへのアクセスは減少傾向にある。ホームページのアクセシビリティやコンテンツ等の改善を図り、魅力ある情報発信に努める必要がある。
- ・ 身体障害者への資料郵送貸出については、登録利用者の高齢化等により利用が減少傾向にある。本サービスの登録には、手帳の所持を要件としているため、本サービスの更なる周知に加えて、本サービスの利用対象外となる障害者等へのサービス展開について検討する必要がある。

【図書館協議会委員からの意見】

- ・ SNSによる発信について、フェイスブック以外のツールも検討してほしい。
- ・ デジタル化への対応について検討を進めるとともに、一人一台端末の配備が進む学校との連携についても検討してほしい。
- ・ 非来館型サービスの充実だけでなく、図書館にしかない出会い、図書館に来ないときできない経験なども大切にPRしてほしい。

【今後の方向性及び次年度の方針】

- ・ パスファインダーの発行点数の充実を受け、今後は地域に関するより専門的なテーマを扱うこととし、利用者のより高度な調査ニーズを満たすものを目指す。また、既存のパスファインダーについても、情報の更新・追加等を行い、より充実した情報提供を目指す。
- ・ 様々な関係機関と連携した展示や時節に応じた旬なテーマの展示を企画し、図書館利用や読書への興味・関心の喚起に努めるとともに、当館所蔵資料のPRを行う。
- ・ ホームページやフェイスブック等の更なる充実や活用により、非来館型サービスの充実を図る。また、SNSのツールについても継続して検討する。
- ・ 利用者アンケートの意見を積極的に反映し、サービスを展開する。
- ・ 障害者、高齢者、外国人等、図書館利用に障害がある様々な方にも配慮し、資料の収集やサービス提供に努める。